

大阪市立常盤小学校 令和元年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

本校には1300名近くの児童が本校(4学年)、分校(2学年)に分かれて在籍している。大阪市でも有数の大規模校であるにもかかわらず、運動場は中規模校と同程度の広さしかなく、どの学級教室も定員いっぱいの児童がひしめき合っている状況である。校内の児童人口密度が高いことに加え、校舎間の移動、校舎から講堂への移動にあたっては、一般道路を横断せざるを得ない構造になっており、学校環境の側面から考えたとき、児童の精神的ストレス度合は他の小学校児童と比べて極めて高いといえる。そのことの弊害として、ケガや、児童間のいざこざをはじめとする生活指導上の問題発生が比較的多い状況がある。この解消にあたっては、単に「規則遵守の指導の徹底」だけでは不十分であり、児童の規範意識の醸成に向け、道徳的な判断力等の育成、自他を尊重する態度の形成、危機回避意識の育成を図ることが重要と考える。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

本校の児童は、教職員の熱心な授業研究・教材研究により、学習に対して意欲的に取り組むことができおり、学力については、全国学力・学習状況調査(国語、算数)においては全国平均を、大阪市小学校学力経年調査(国語、社会、算数、理科)においては大阪市平均を上回る成績を残している。しかし、学年や教科によって、大阪市平均を大きく上回っているもの、僅差で上回っているもの、まちまちである。

児童の学力向上にあたっては、教員の研究研修は欠かすことはできないものであり、とりわけ、児童の実態(理解度・関心度等)を踏まえ、児童が意欲的に取り組み、「わかる・できる」授業を提供していかなければならないと考える。そのためには、学習指導要領の改訂内容をふまえ、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」をテーマにした全学年による国語の研究をはじめ、指導の充実や授業力の向上および経験の少ない教員の育成等、授業研究を軸とした校内研修を充実させていく必要がある。また、授業内容に応じて、ICT機器を活用し、児童一人一人の能力や特性に応じた指導を充実させ、授業の質を向上させていく必要性もあると考えている。

体力の向上にあたっては、この4年間(平成25年度～28年度)に「パワーアップタイム」の設定、体育授業における運動量の確保等、全校を挙げて取り組みを行ってきた結果、前述したように一人当たりの運動できる場所は他校と比べて圧倒的に少なく、地域にも運動できる場所が少ないにもかかわらず、「全国体力・運動能力、運動習慣調査」における全国平均得点、大阪市平均得点との差は徐々に縮小してきた。今後も体育的活動の工夫、体育授業の改善をはかっていくことにより、体力の向上を図っていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○ あらゆる教育活動を通して、「いじめ」事象の未然防止に努めるとともに、発生したい

じめ事象については、全教職員が一丸となって解決に取り組み、その解決への取組みを100%にするとともに、各年度の解消率を95%以上にする。

- 4年間「学校のきまりを守る」取組みを継続して行うことで、令和2年度末（平成32年度末）の「学校のきまり・規則を守っていますか」という項目の肯定的反応の比率を90%以上にする。
- 暴力行為についてはいかなる場合でもゆるされないことを徹底指導し、令和2年度（平成32年度）の校内における暴力行為を、平成28年度の件数の1/4以下にする。
- 平成28年度の不登校割合を、令和2年度（平成32年度）には半減させる。
- あらゆる機会を通して、自分のよさや友達のよさについて考えさせる取組みを通して、令和2年度（平成32年度）には「自分には何かよいところがありますか」という項目に対してははっきりと「いいえ」と回答する割合を3%以下とする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- わかりやすい授業をめざして授業展開の工夫等に取り組み、令和2年度（平成32年度）までの学力経年調査における標準化得点を、すべての対象学年（3年生以上）のすべての教科において、大阪市の平均を3ポイント以上上回る。
- 体育授業、体育的活動、遊び時間の工夫を行うことにより、令和2年度（平成32年度）の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計得点を、男女ともに大阪市平均以上とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を88%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- ・ 学校で実施している学校アンケートの「自分にはよいところがありますか」の項目について、「いいえ」と答えた児童の割合を4%以下にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 大阪市小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・ 大阪市小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・ 大阪市小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- ・ 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均記録を、男女ともに前年度より 0.1 ポイント（秒）向上させる。

学校園の年度目標

- ・ 学校で実施している学校アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の項目について、肯定的回答の割合を全体の 90% 以上にするとともに、「はい」の割合を全体の 60% 以上にする。
- ・ 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女それぞれの平均記録を、全国の平均記録よりも 1 種目以上上回る。

大阪市立常盤小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 88%以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で実施している学校アンケートの「自分にはよいところがありますか」の項目について、「いいえ」と答えた児童の割合を 4 %以下にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>災害発生時においても自ら危険を回避し自らの命を守る行動をとることができるよう、地域防災との連携による実質的な防災教育を推進する。</p> <hr/> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内実施の避難訓練を年間 3 回以上行う。 ・ 家庭や地域と連携した避難訓練や防災活動を年間 3 回以上行う。 	
<p>取組内容②【施策番号 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>自らを律しつつ、他者とともに協調し、他者を思いやる心や感動する心を育てるため計画的な道徳授業の実践を行う。</p> <hr/> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間 35 時間以上の授業時数を確保し、各学年で定められる全ての内容項目について授業を行う。 ・ 道徳科研修会を年間 2 回以上実施する。 	

取組内容③ 【施策番号 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

不登校をはじめとし様々な課題を有する児童が安心して登校できる学校づくりを進める。

指 標

- ・ 主に不登校児童を対象とした「不登校児童等連絡協議会」を、年間 3 回以上開催するとともに、会の充実を図る。
- ・ 不登校児童をはじめ様々な課題を有する児童が安心して過ごすことのできる「ほっとスペース」を、効果的に運用する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標について

学校の年度目標について

取組内容①について

取組内容②について

取組内容③について

次年度への改善点

大阪市立常盤小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪市小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・ 大阪市小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 ・ 大阪市小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。 ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ・ 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50 m 走の平均記録を、男女ともに前年度より 0.1 ポイント（秒）向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で実施している学校アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の項目について、肯定的回答の割合を全体の 90%以上にするとともに、「はい」の割合を全体の 60%以上にする。 ・ 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女それぞれの平均記録を、全国の平均記録よりも 1 種目以上上回る。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号 5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけさせる。</p> <hr/> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で実施している学校アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の質問において、全学年で肯定的な回答の割合を 90%以上とする。 ・ 宿題や家庭学習の内容を検討し、計画的・継続的に提供する取組等を通して、 	

<p>大阪市小学校学力経年調査の質問紙調査「学校の授業以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問において、全学年で30分以上と回答する児童の割合を85%以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3～6学年の算数科と国語科の選択した単元において、習熟度別少人数指導を実施する。 ・ 児童一人一人の学力を把握・分析し、学習指導に活かすため、大阪市小学校学力経年調査の調査対象外である1,2年生について、校長戦略支援予算を活用して、国語科と算数科の「標準学力調査」を実施する。 	
<p>取組内容②【施策番号5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科の研究活動を進め、日常の授業改善に生かす。 ・ 経験の少ない教員の育成を図るための校内研修を充実させる。 <hr/> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間6回以上の授業研究を行うとともに、全教員が1回以上の授業研究もしくは公開授業を行う。 ・ 1,2年目教員を対象とした拡大初任者部会を、年間6回以上実施する。 ・ 実技を伴う授業研修会を、年間4回以上実施する。 	
<p>取組内容③【施策番号7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭と連携し正しい食習慣・生活習慣の確立を図る。 ・ 将来にわたって、たくましく生きるための健康習慣や体力を養う。 <hr/> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養指導、食教育、委員会活動等の取り組みを通して、児童向け学校アンケートの「配膳された給食を、残さず食べることができましたか。」の質問において、肯定的な回答の割合を90%以上とする。 ・ 昼の時間帯のパワーアップタイムの定期的な実施と、時期に応じた駆け足週間や縄跳び週間等の実施を行う。 ・ 遊び場の確保のため、放課後の校庭開放を実施していく。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<div>全市共通目標について</div> <div>学校の年度目標について</div> <div>取組内容①について</div> <div>取組内容②について</div>	

取組内容③について
次年度への改善点